

「デイトナ不動産 NEWS01」全国にデイトナハウスのガレージ商品 GARAGE-Dが増殖中です！



LGSパネルを使用した、デイトナハウスの鉄骨ガレージシステム「GARAGE-D」が全国で続々完成しています。卓越したフォルムと、外壁ガルバリウムの金属感。そして何と言っても特筆すべきは、艶消し黒でパウダーコーティングされた鉄骨フレームの鉄感です。利用されているオーナーさんたちからは、クルマの格納の利便性はもちろんのこと、特に夜間が素晴らしいとのこと。スポットライトに照らされた愛車とフレームの鉄骨が呼応するイメージは喜びそのものとのこと。もともとこのガレージを利用するユーザーは高度なクルマ好き、バイク好きの方です。クルマもバイクもその性能と愛着の根源は表面のフォルム以上に骨組み／フレームにあるとわかっている人とも言えます。寡黙な鉄骨フレームの醸し出す鉄感に愛機が馴染んでいる様子がたまらなくうれしいとの感想も納得できるところです。やはりクルマやバイクのポテンシャルに合わせたガレージを選びたいですね。

GARAGE-Dってなんだ？

単なる箱型の収納庫ではなく、今にも動き出しそうなフォルムのデザインを備えたデイトナハウスオリジナルのガレージシステムです。標準仕様は4種類。クルマの台数、使用用途に応じてお選びください。また、シャッターの仕様もオーバースライダーや巻き上げ式など自由に選択できます。詳しくはWEBサイトでご確認ください。



daytona-house.com/2017/10/03/
garage-d-catalog

朝日に照らされた愛車のボディラインにしみじみと喜びを感じる。このガレージは特注仕様で、“二方面開放”の仕様です。このサブ開口が庭に面して、開放性を演出、単なる秘密の格納庫ではないコミュニケーションスペースとしてのガレージの可能性を開きます。ブラインドで開放性をコントロールしてさらに表情豊かに。



「デイトナ不動産 NEWS02」浜松のガレージアパート、ついに事前募集開始！！

デイトナ不動産として、見解を述べておかねばならないこととして、いわゆる“サブリース（一括借り上げアパート営業）”のことがあります。先ごろ大新聞の一面にも掲載されましたが、全国でサブリースにまつわるアパートオーナーと運営会社のトラブルが多発し、集団訴訟が発生しているとのこと。確にかつては、“金のなる木”としてのアパートの営業が幅を利かせ、賃貸居住者の募集は一切まかせっきりというオーナーが多かったのも事実です。賃貸経営は、当たり前ですが、“経営”ですので、オーナーはもっと積極的に居住者募集に自ら神経を使うべきだと考えるわけです。その意味ではデイトナハウスのガレージアパートはクルマ好きオーナーにとっては同行の士を集めるのですから、楽しく積極的。これからの賃貸経営にびったりなのです。

そんな浜松のGLBも、4月のオープンに向けていよいよ事前賃貸募集開始です。気になる方は、WEBサイトをチェックしてみてください。

Daytona HOUSE ×LDK Shizuoka
053-482-7415 daytona-house.com/balanceGLB



「D」デイトナ不動産 VOL.10

現役の田んぼの上に運営する“田んぼレストラン”。春水盤上の“鉄の金閣寺”が、四季折々の表情を変えていく。デイトナハウスが座標軸になって、普段見慣れた風景にエネルギーを吹き込む。



デイトナ不動産 COLUMN

農業のそれ自体を元気にしたい！ これからの農地転用について考える

耕作放棄地ではなく、むしろ現役の農地に“農業それ自体を元気にする建物”を立てさせてほしい。
農地転用の新しい可能性を提案します。

Text/Atsushi TAMADA



耕作放棄地とは？

【以前耕地であったもので、過去1年以上上作物を栽培せず、しかもこの数年の間に再び耕作するはっきした考えのない土地】と、農林水産省は定義している。ここ数年後継者不足による増加が著しい。

農地に関するニッポンの法律「農地法」は、農業と農地を守る法律として存在しています。そこでは主に、耕作を放棄した土地や生産量が上がらない土地に限り、気の遠くなるような手続きの末に、ようやく、地目変更が許されるということになっています。実際に元々農地の真ん中に、面白い建物を建てようと思つたところで、その許可はなかなか下りません。でも、農地に建てられないわけではないのです。農地転用という申請が認められれば、今は農地にも建物を建てることのできるのです。とは言え農地転用の現状は、耕作が放置された土地や生産性の低い土地に、金のなる木としてアパートや建売住宅を次々に建築するというものが大半。ニッポンの美しい景色を代無しにしてしまう建物で溢れかえってしまっています。農地法の制定の意思に反して、必ずしも農地は守られていませんし、農業は元気になっていない。良く考えてみると、その“守る”というスタンスこそ問題があるかもしれません。農業従事者／農家も誰でもなれるわけではありませんが、その既得権を守るといいう形にことが進んでいるとすれば、そ

出雲モーターホテルが建設される場所も元々は農地

水平線に沈む夕日があまにも美しいロケーションに、現在出雲に建築中のモーターホテルですが、この海辺の敷地も老人が細々と自家用のトマトを栽培していた耕作地でした。日本中にはこのような土地が実に多くあるのです。



れこそ最悪です。むしろ多くの農業従事者以外の人が、農業に興味を持ち、自分の人生に引きつけて考えることが一番大事です。農業体験イベントや貸農園が活況なのも、そのように考える人が増えているからです。だからこそデイトナハウス的には、むしろ元々農地にこそ、農業それ自体を元気にする建物を作りたいたいです。例えば現役の田んぼの真ん中にこそ、田んぼレストランを建築したい。春は水盤の上に浮かび、夏は伸び盛りの緑の中に。そして冬は真っ白な雪の中に浮かび上がるのです。四季折々の里山の営みを改めて認識するには建物Ⅱ人が集まる施設という座標軸があつたほうがいいと私は考えます。価値というのは、そこがいかなる。金のなる木であるかという指標ではなく、生きるためのエネルギーを発信できるポテンシャルを持っているか？という意味に解釈したい。デイトナハウス不動産には、そのような考え方が根底にあるのです。

今は元気な農地も、後継者不足と環境の変化で危機に瀕している

奈良時代の昔から、農家は土地に縛り付けられてきましたが、インターネットの発達には農家が自主的に外部世界と流通することを可能にしています。起爆剤を世界に発信して、外から人を呼び込むこともできるのです。



ツリーハウスを下から見上げる。まるで鳥の巣箱のような愛らしさ。LGSパネルを用い、2スパン×2スパンで構築した8畳の広さの立方体は、ツリーハウスとしては十分な広さと言えます。たとえば浴室やサウナ室としての箱や、シアターシステムを備えた箱などを設定すれば、森の中のリゾート施設として、より楽しいものになることでしょう。このサウナ室で“裸のサル”になる快楽は計り知れません。

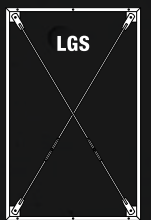


本当は、建築のおせっかいな法律なんかなければ、このような住まいを求める人も多いのではないのでしょうか？ しかも土地に縛り付けられている印象からも全く無縁なのです。その意味では、未来の住宅地の姿を先取りしているのかもしれません。

Theme

樹上生活の快樂へ LGSシステムで作る 合法的ツリーハウスの現実性

ニッポンの建築法規には適合しないことが悩みの種であったツリーハウス。
デイトナハウスがその糸口を遂に見つけ出しました。



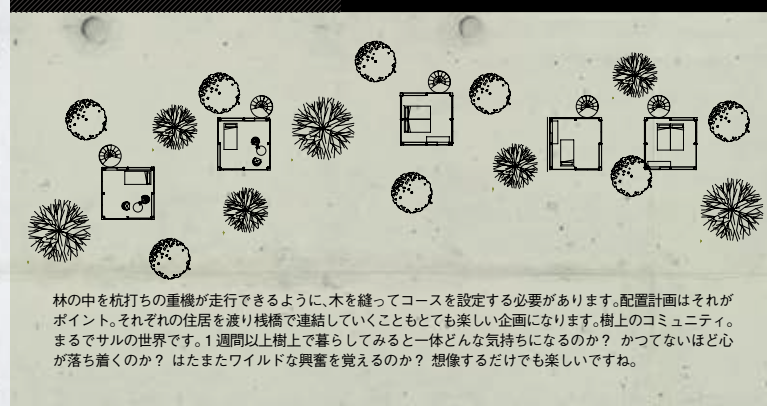
×
8
PANELS

[1 棟]



従来のツリーハウスのほとんどが、木に何本も太いボルトを打ち込んで小屋の土台を固定するタイプのものでした。それは建築的にも樹木的にも少々痛々しいもの。一方でデイトナハウスの高床ツリーハウスは、あくまで木に寄り添うイメージ。しかも根っこを切ることもなく、地面を掘り返すこともないのです。相棒となる木の枝ぶりに合わせて、足の長さを決めるのですから、人間本位じゃない気持ちになるのです。

FLOOR PLAN



INFORMATION LDKinc.

デイトナをはじめ、カーマガジンでの長期連載、ムック本であるCAR&HOMEにて、常にクルマと住宅の関係について提案し続けてきた建築プロデュース会社 LDK inc. 建築設計はもろんのこと、建築システムの開発や商品開発も行う。

代表: 玉田敦士
WEB: www.ldk.co.jp
TEL: 03-6228-4933

DAYTONA HOUSE OFFICIAL HP
www.daytona-house.com

しかないのが現状です。そこで、今回はデイトナハウスが提案している高床式工法を使って、合法的なツリーハウスを考えてみました。地面に向かって鋼管杭を打ち込んで、その上にトラックのシャシーのような鉄骨土台を構成し、さらにその上にLGSで平屋を建築する。この「スパイキー」と呼んでいる工法は今までも何度かご紹介してきましたが、斜面でも擁壁や過剰な基礎を作る必要のない高床式工法です。その発想を延長させて、林の木に寄り添うように長い杭を4本打ち込み、先述した鉄骨土台を回して、2スパン四方のLGSパネルの箱を構築します。シンプルな立方体だからこそ、杭の長さによる高さの違いや開口部のカタチに変化を持たせることが、箱それぞれの個性として認識され、映画『もののけ姫』に出てくる、こだまのように楽しい印象を作ります。自然回帰だからと言って、すべて木質の素材ではなく、むしろ艶消し黒の鉄骨フレームを適度に露出させることがデイトナハウスならではの仕様。鉄感と樹木のグリーンが呼応して洗練された安らぎを感じさせてくれることでしょう。

Text/Atsushi TAMADA CG/Kenta KITAGAWA (ldk), Soma YOKOI

人間の祖先は樹上で生活していたサルだったとすれば、私たちがツリーハウスを見て心惹かれるのも当たり前のことなのかもしれません。緑の枝に囲まれて眠ったり、朝、鳥の声で目覚めたりすることを想像するだけでもワクワクします。ニッポン中のリゾート地でもツリーハウスをよく見かけるようになりました。しかし、案外知られていないことですが、建築上の法律では天然に生えている樹木にボルトを突き通して家屋を支えるツリーハウスに、適法の証明としての建築許可を出すことは普通はありません。ハウスとは言いながら、暫定利用の「遊具」のような扱いをする

What's Daytona House?

デイトナハウスを構成するのは、LGS と呼ばれる軽量鉄骨のパネルで、厚さ3.2mm、幅12.5cm、厚み5cmの「C チャンネル」と呼ばれる部材を、横幅180cm、縦270cmの長方形に溶接して製作しています。対角線のクロスしたパーツは、「ブレース」と呼ばれる筋違いで、力の伝達を受け持つ大切な役割を持っています。「柱」と「梁」と呼ばれる縦と横の部材を使って軸組を作っていく一般的な建築とは違って、デイトナハウスはこのLGS パネルを連結することで住宅、ガレージ、別荘、店舗、マンションなどの様々な建築を可能とする、全く新しいカタチのシステムなのです。つまりこのLGS パネルを使った建物全てがデイトナハウスと言う訳です。パネルの枚数を数えるだけで、建築の広さ、およその予算がイメージできる分かります。パウダーコーティングが施されたその鉄の素材感が醸し出すハードボイルドな空間のテイストも持ち味です。

